

薬物犯罪 すべてを狂わせる



薬物の危険性について、山田警部（写真奥右端）の授業を受ける学生たち＝千種区の愛知学院大楠元キャンパスで

愛知学院大生に県警が授業

愛知学院大薬学部の1年生を対象にした薬物犯罪に関する授業が26日、千種区楠元町の楠元キャンパスで開かれ、144人が違法薬物の危険性を学んだ。

県警薬物銃器対策課の山田和史警部（44）が講師を務め、捜査経験を踏まえて話した。昨年、県警が大麻事犯で検挙した462人のうち約8割を10、20代が占め、若い世代に大麻がまん延していると説明。交流サイト（SNS）の普及で薬物が手に入りやすくなっていることや、薬物への正しい理解が足りないことなどを要因に挙げた。

隠語や絵文字を用いたSNS上での密売の事例を紹介した上で、山田警部は「薬物を買う金欲しさに闇バイトや窃盗をやる人も現

実に見てきた。薬物は周りの人間も含め人生を大きく狂わせるものだ」と理解してほしい」と強く呼びかけた。授業に参加した早川湊真さん（18）は「いつどこで何がきっかけで違法薬物と関わるか分からないので、人ごとだと思わずに気をつけていきたい」と話した。

（岡崎胡桃）